

現場見学会

宇部西高等学校／環境緑化系

真剣に説明を聞く生徒達



スケールの大きな仕事 完成をこの目で確かめたい

山口県建設業協会では、土木・建築分野を学ぶ高校生に、建築業の魅力を感じ理解を深めてもらう

ため、毎年建設現場見学会を実施しています。今回は平成19年8月24日、宇部西高等学校・環境緑化系で学ぶ2年生14名が参加した現場見学会を取材しました。

初めて訪れたのは一般県道武久椋野線の現場。同線は下関市の中心部を東西方向に伸びる幹線で、国道191号、国道2号、中国自動車道下関I・Cを結ぶ重要な役割を担っています。線の中心部である幡生駅周辺エリアはJR線によって東西に分断されており、交通渋滞が慢性化していたことから、国道191号下関北バイパスから線路を高架橋で超える1.6kmを整備するもので、これにより渋滞の緩和と交通安全の確保、さらに中国自動車道下関I・Cから新たに建築中の下関沖合人工島へのスムーズなアクセスも見込まれています。

生徒の皆さんは、現場を担当しておられる下関土建の方から説明を受け、橋が組み上げられた時の様子や、使用されているプレストレストコンクリートと呼ばれる新し



いコンクリート技法のこと、大規模な工事に関わる専門、施工、設計といった様々な人の繋がりで、教科書では学べない生の現場の話に熱心に耳を傾け、図面と実際に造られた高架橋を何度も見比べていました。また「出来上がったときはぜひ通ってみてほしい」との担当者さんの言葉に大きく頷く場面もありました。

その後、下関市立考古館での見学、昼食を終え、公共下水道事業現場・下関市山陰終末処理場を見た後、いよいよ新港地区の下関沖合人工島の現場へ。

下関沖合人工島は国際コンテナ貨物の増大や船舶の大型化への対

応など、より国際競争力のあるターミナルをつくるために平成7年より現地工事に着手されているもので、平成20年より一部供用開始が予定されています。広さは61.6ヘクタール。福岡ドームの約9個分にもあたる面積です。

生徒の皆さんは、全体を見渡す仮設事務所の屋上に上がり、島全体を見渡しながら、下関港港湾局の方からの説明を受けました。防波堤・航路・泊地・岸壁といった人工島ならではの施設の構成や、海の中での作業が9割とされる工程、また何より「島をつくる」というスケールの大きさと困難さに、生徒の皆さんは圧倒されながらも、実際に現場で働く機材や作業員の方々に目を奪われていました。

見学終了後、生徒さんのひとりとお話を伺うと「働いている生の現場を見ることができて、とても



人工島の地面をつくる巨大な機械



スケールの大きな仕事に感激！



伊藤頭一先生

める場にもなります。また特にこのような大きな工事の現場はなかなか訪れることもできないですから、良い刺激になったのではないのでしょうか」と、イキイキとした生徒達の表情を見守りながら、嬉しそうに語られていました。

いい経験になりました。今回見た現場をまた訪れて作業が進んだところや完成したものも見てみたいですよ」と現場の空気に感銘を受けた様子。また、引率された伊藤頭一先生は「現場を見ることで日頃授業や本で学んでいる知識を確か